

令和5年生駒市教育委員会第3回臨時会会議録

1 日 時 令和5年8月9日(水) 午前10時00分～午後0時39分

2 場 所 生駒市コミュニティセンター 402・403会議室

3 審査事項

(1) 議案第24号 令和6年度使用小学校教科用図書採択について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員 (教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委 員	レイノルズあい	委 員	伊 藤 智 子
委 員	古 島 尚 弥	委 員	中 川 義 三
委 員	吉 尾 典 子		

5 事務局職員出席者

教育こども部長	鋤 田 明 年	教育こども部次長	松 田 悟
教育総務課長	山 本 英 樹	教育指導課長	花 山 浩 一
教育総務課課長補佐	桐 坂 昇 司	教育指導課課長補佐	中 田 博 久
教育総務課 (書記)	佐 竹 裕 介	教育総務課 (書記)	吉 川 優 香

6 傍聴者 14名

午前 10 時 00 分 開会

○開会宣告

○日程第 1 議案第 24 号 令和 6 年度使用小学校教科用図書採択について
・令和 6 年度使用小学校教科用図書採択について、花山教育指導課長から説明
<参照：議案書 p 1～2、資料 1、資料 2>
(質疑)

原井教育長：議案書 2 ページの一覧表のとおり、教科と種目を上から順に審議したい。

【 国語 】

原井教育長：国語については、2 東京書籍、17 教育出版、38 光村図書の 3 社である。
各委員からのご意見を賜りたい。

中 川 委 員：光村の教科書は表紙から楽しい感じが伝わり、子どもたちの興味を引くと思う。また、対話スキルの練習等がある点も良い教科書だと感じた。

飯 島 委 員：最近の文学作品の読解だけでなく、オールラウンドの国語力を鍛えるような内容が各社多い印象である。中でも光村では、二十四節気という日本の伝統的な季節に関する内容が取り扱われている点が良い。また、1 年間の学びを予習・復習するには分冊ではなく 1 冊にまとまっている方が使いやすいと思った。さらに光村はクリーム色の紙面で文字と紙面のコントラストが目優しいという点においても光村が良いと思う。

伊 藤 委 員：東京書籍について、現代的な話題が多く、今の子どもたちにとって興味深い内容が多いように感じる。また、書くことや話すことという部分でアウトプットができるようになっている点や現代的なリテラシーが鍛えられるような内容が多い点が非常に良い。全体的にシステムティックで使いやすいように感じる。現行の光村に関しては、表紙が美しく魅力的である点やメディアリテラシーの内容が良い点、点字に触れるような体験学習ができる点が良い。

古 島 委 員：光村は図工や音楽に関連付けられている点が面白いと思った。また、教科としての学習にとらわれず、キャリア教育に結びつけている点が良いと思った。

吉 尾 委 員：光村は古島委員が言ったように新しい題材が多く含まれている。それに加え、保護者の方も知っているような昔から引き継がれているよい題材も多く選ばれている点が良いと思った。一方で教育出版は、物語の絵が絵本に近い雰囲気であり、映像と言葉が結びつきやすくなっていると感じた。私は幼稚園現場での経験から、絵本のように映像と言葉には相乗効果があり、より美しい日本語を学んでくれるものと思っているので良いと感じた。また、6 年生の哲学対話が面白いと感じた点や紹介している本が非常に良い本を選んでいるなど感じたので、教育出版も良いと思う。

中 川 委 員：東書は編集力や資料が多くあった。光村は学年に応じて付けるべき力を的確に付けることができるような配列になっていると感じた。さらに他教科との関連付けがある点から光村には魅力があると思う。

原井教育長：皆様の意見を総括すると特に良い評価が多かったのは、光村である。教科国語、種目国語については、「３８光村」を採択することで異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【３８光村図書を採択】

【 書 写 】

原井教育長：書写については、２東京書籍、１７教育出版、３８光村図書の３社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯 島 委 員：国語と書写は別々に採択する必要があるが、やはり読むことと書くことは密接な関係がある。国語の教科書とリンクしているのは光村であると感じる。教育出版は説明的な印象があるが、東書と光村は視覚的なものが多く書き写す書写としてはわかりやすいかと思う。光村には猫を使った筆遣いの表現がある。教科書としては挑戦的な表現方法かと思うが、子ども達にとって非常に分かりやすいと思う。

伊 藤 委 員：教育出版では書き方に、はねやとめだけでなく、「すー」や「ぴた」というような擬音語が入っている点が分かりやすいのではないかと感じた。また、３年生以降からオレンジとグレーで色分けして筆圧を説明している。これらのことから、教育出版が視覚的でないというわけではないと思う。ただ、飯島委員が言った通り、どの漢字をいつ習うかという点においては、国語の教科書と連携している光村が良いかと思う。

吉 尾 委 員：私としては教育出版の字が最も美しく分かりやすいと感じた。しかし、飯島委員のご意見で教科書は視覚的なことも大事ということを聞いて納得した。使い勝手としては、光村も東書も大差ないように思う。

中 川 委 員：筆使い等の表現方法としては、光村が１番分かりやすいと思う。

古 島 委 員：光村は、国語に引き続き他教科との関連を意識していると感じた。また、横書きを取り扱っている点が、ＩＣＴ教育を進めている現代に合っていて良いと感じた。

原井教育長：教育出版の字の美しさや表現方法の分かりやすさについても意見に挙げたが、国語との関連性や筆使いの分かりやすさにおいて良い意見が多かった光村図書を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【３８光村図書を採択】

【 社 会 】

原井教育長：社会については、2東京書籍、17教育出版、116日本文教出版の3社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：かつての教科書はモノクロであり、文字で学ぶものだったが、昨今は視覚的に学んでいく機会が多い。私としては、教科書は今後日常的なメディアではなくなるのではないかという危機感を持っている。教科書に興味を惹きつけるには、写真がカラーかモノクロかという点は非常に重要だと思う。例えば青空教室の写真で、子どもたちの笑顔が見えるか見えないかでは印象が変わる。文字だけでなく視覚的に伝えようという感情が伝わるという点においては教出が良いと感じた。

伊藤委員：私は東書か教出が良いと感じた。東書はデジタル教材の中でクイズやドリルがあり、子どもが興味を持てる内容であると思った。また、教出は調べ学習の仕方が詳しく掲載されており、クイズの自作や水の消費量を調べる等、実践的な学びができると感じた。日文については、主体的で深い学びのヒントが多い点が良いと思ったが、デジタルワークシートについては形式が細かすぎて使いづらいように感じた。また、漫画でアクティブラーニングのやり方が示されているが、私としては内容が具体的すぎて子ども自身の意見に影響があるのではないかと危惧した。

原井教育長：伊藤委員のご意見について、学校の教員からは書き方や話し合いのモデルが記載されていることは使いやすいという意見もある。

古島委員：日文はバランスが取れている印象である。伊藤委員のおっしゃる通り子どもの視点に立てば説明しすぎという意見もよく分かる。しかし、まだまだ従来通りの講義型の授業を行っている教員はいて、その教員の立場から見るとやはり説明があることで授業を行いやすくなるかと思う。

吉尾委員：社会は算数のように正しい答えを求めていくものではなく、主体的で対話的な学びを行いやすい教科書であると思う。対話の中で子どもたちには色々な人の意見を聞いて学んでほしい。私としてはそういう学習を行いやすいかどうかを教科書の選ぶポイントにしたい。

中川委員：社会は自分の街について考えることができるという特徴がある。日文は見本があることでそういった活動がしやすいように思う。また他の教科書では事実のみが記載されている印象であるが、日文は「あなたはどうか思うか？」というような語り掛けが多い。写真についても自分の学びに繋がる写真を選んで構成されている点が良い。

神澤委員：SDGsの取り扱いについて各社比べると、日文は各学年の巻末にシールを付けているのが特徴的である。また索引もあり、教科書を道具として使うときには非常に有効であると感じる。

原井教育長：本市はSDGsの取組を推進している。SDGsの記載があることは重要であると感じる。

飯島委員：SDGsの記述について、日文はフードロスの記載がある。子どもたちにとってSDGsは分かり辛いものに思うが、身近な食を例に出している点が分かりやすいと思う。また戦争の取り扱いについて、「当然平和であるという考えでは平和は訪れない。平和であろうとしなければならない。」ということ子どもたちに意識してもらうためには、各社とももう少し客観的かつページ数を増やして取り上げてほしい。特に国際的に意見が異なる領土問題に関しては、しっかり問題として取扱い日本の立場をはっきりと示している教科書が良いと思う。そのような観点では日文が良いと思う。

原井教育長：日本文教出版が良いという意見が多かったように思う。日本文教出版を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【116 日本文教出版を採択】

【 地図 】

原井教育長：地図については、2 東京書籍、46 帝国書院の2社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：地図を使い始める3年生の導入で、東京書籍はイラストと地図を見比べているのに対し、帝国書院はGoogleマップと地図を見比べている。帝国の日常的に目にするものと比べるというアイデアに感心した。また、見慣れているからか帝国の地図の方が見やすいように感じたことから、帝国の方が良いと思う。

中川委員：東書は道路や施設の記載が煩雑な印象がある。帝国の方が丁寧で他の情報と混じらないように書かれているように感じた。

吉尾委員：私は見やすいかどうかを重要視したい。地図帳が何を読み取らせたいのかということが重要である。その観点では私も帝国が良いと感じる。

中川委員：先ほどの意見の追加で、東書は非常に情報量が多いように感じる。それにより見づらくなっていると思われる。

神澤委員：子どもたちは地図を見たときにまず自分の住んでいる町を探すと思う。実際私も探してみたが、東書は見づらいと感じた。情報量が多いことが悪いことかは分からない。しかし、東書の地図では子どもの興味を引けないのではないかと思う。このことから私も帝国の地図が良いと思う。

原井教育長：必要な情報を得るのに時間がかかる子どももいる。そのような苦手な子どもにとっても見やすいかどうかは非常に重要な視点であると思う。

伊藤委員：私も見慣れた色使いである帝国の方が見やすいと感じる。また、近畿地方の扱いも帝国の方が見やすいと感じる。

原井教育長：では、帝国を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【46 帝国書院を採択】

【 算数 】

原井教育長：算数については、2 東京書籍、4 大日本図書、1 1 学校図書、1 7 教育出版、6 1 啓林館、1 1 6 日本文教出版の6 社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯 島 委 員：各社とも算数で完結せず、日常の生活と結びつけようとしていて、基本的な部分は良いと思う。細かいところ言えば、学図の版が大きく使いづらいように感じる。もう少し余白を削ることができるのではないかと思う。また、教出は文字の大きさが若干小さいように思う。前回の採択の際、東書や啓林館のような難しい内容や練習問題が多い教科書より、簡単で分かりやすい日文の方が基本的なことを学べるということで採択したと思う。結果として、日文を使っている今の子どもたちの算数の学力は十分に高い。教科書の内容が難しいからと言って学力が高くなるとは限らず、先生方が上手く教科書を使用すれば問題ないと思う。今回も基本的な部分をしっかり学べる日文が良いと思う。

原井教育長：教科書だけでなくプリントやドリルで反復練習していくので、私も教科書が易しいからといって学びが発展しないわけではないと思う。

吉 尾 委 員：算数は教科の中で最もつまずきやすい教科であると思う。そのため、分かりやすいものを採択することで、段差を減らすことが重要であると感じる。算数への苦手意識を払拭することで、全体の教科の学力も底上げすると思う。理解したときの感覚を味合わせてあげたい。

中 川 委 員：日文の低学年の教科書について、半具体物・具体物から数式の世界へという流れが分かりやすいと感じた。一方で東書はイラストがきれいだと感じた。

伊 藤 委 員：日文は色使いが適度で見やすいと感じた。啓林館はゲームや塗り絵等の面白い記述が多く、主体的な学びという点においては良いと感じた。

古 島 委 員：大日本図書と日文はプログラミングについての記載がある点が良いと感じた。さらに日文は日常的に使う頻度が高い統計に関する内容があった点が良いと思う。巻末に「算数マイトライ」があり、自主的な学びを促していて良いと感じた。

神 澤 委 員：市民の方のアンケートにもあったが、先生方が使いやすいものが一番良いと思う。

原井教育長：日文が算数が苦手な子どもへの配慮があるという点において良いという意見が多かった。また、先生方の意見も考慮し、日本文教出版を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【1 1 6 日本文教出版を採択】

【 理科 】

原井教育長：理科については、2 東京書籍、4 大日本図書、11 学校図書、17 教育出版、26 信州教育、61 啓林館の6社である。各委員からのご意見を賜りたい。

中川委員：啓林館は電気の後に梅雨や水の流れの学習という順番になっており、実際の季節を少し先取りした形で進むようになっている。勉強をしてからその季節が来るという形は、実際の学校現場で使用することを想定すると非常に良いと思う。

飯島委員：中川委員の意見について、先生が教科書の順番を入れ替えることも可能ではあるが、子どもたちの取り組みやすさを考えると順番に並んでいる方がより良いと思う。東書について、教科書が大判である点とフォントを変えすぎている点がいづらひように感じる。大日本も大判でページ数も多く、子どもたちが一人で読み返しづらひかと思う。また、学校図書は写真をメインとしているが、イラストと写真どちらが良いかというのは場面によるので、理科においては必ずしも写真が分かりやすいとも限らないと感じる。

伊藤委員：私は教科へ興味を持てるコラムに注目した。東書は特に身近なもので興味を引くような内容が多いと感じた。啓林館も良いコラムが多いと思う。

中川委員：啓林館の人体の写真が非常に良いものである。

神澤委員：実生活とのリンクが重要である。啓林館はECMOや自動運転についての記載があり、非常に良い視点を持っていると感じる。

吉尾委員：理科は自然との関わりが一番ある教科であると思うのでそのような視点で見させてもらった。どの教科書もジオパークの記載がある。中でも大日本は3年生から6年生の全ての学年で記載がある。また、人体のイラストについて、大日本はあまりリアルではないが、それが逆に小学生には分かりやすいかと思う。学校図書は、影の観察で友達と協力しているような描写がある。共同的な学びを提示している点が良いと思う。また、アゲハ蝶とモンシロチョウの観察がどの会社にもあったが、啓林館の記載方法は並列していて分かりやすかった。また、目次も見やすいと感じたので啓林館が良いと感じる。

古島委員：SDGsについての記載がどの教科書にもあって印象的だった。実験の説明については、啓林館が非常に分かりやすく、先生方も使いやすいのではないかと感じた。

原井教育長：啓林館が良いという意見が多かったように思う。啓林館を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【61 啓林館を採択】

【 生活 】

原井教育長：生活については、2 東京書籍、4 大日本図書、11 学校図書、17 教育出版、26 信州教育、38 光村図書、61 啓林館の7社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：教科になってから30年ほど経って安定してきたと思う。大日本と学校図書について、低学年の視点を考えるともう少し工夫ができるのではないかと感じた。啓林館はつぶやきや吹き出しが多い。子どもたちの親しみやすさを意識したのかもしれないが、使いづらいと思う先生もいるのではないか。また、私は特に命の大切さを感じてほしいという視点から見させてもらった。教育出版は植物の成長の過程を丁寧に扱っているが、東書は少しあっさりしすぎているように感じる。学習指導要領においては、生き物を実際に育てることで、生き物に親しみを持ち、大切にすることを心を持つことという記述がある。生き物を育てるプロセスを丁寧に学ぶことが重要であると思うので、教育出版が良いと思う。

レイノルズ委員：現行は東書であるが、各社とも日々の生活に関わるような内容の記載があり、正直あまり大差はないように感じた。東書の方が写真やイラストが多く、分かりやすいと感じた。

伊藤委員：教育出版のわくわくスイッチについて、遊びながら学べるような形で作られていて良いと感じた。図鑑のようなページも面白い。啓林館も自然の美しい写真が多い点が良かった。

神澤委員：教育出版のキャラクターが印象的である。子どもたちが学びやすい点かと思う。さらに自己肯定感に関する取り扱いも良いと思う。

原井教育長：生活は3年生からの理科・社会に繋がる重要な教科である。

吉尾委員：大日本の生き物の写真が見やすいと感じた。特にダンゴムシの写真が良く、飼育の仕方も丁寧に記載されていた。光村の教科書は絵本の延長上のような内容に感じた。保幼小接続の観点から非常に良いと感じた。また、季節の仲間たちという図鑑も実物と見比べるという点で良い。

原井教育長：どの学校でも子どもたちに観察カードを書いてもらっている。光村の観察カードの文字がやや小さいと感じた。一方で教育出版は見やすいと思う。

中川委員：東書の写真は見やすいように工夫されている。ただ、子どもたちの視点に立つと、教出の方が分かりやすいと感じた。

飯島委員：教出では、車椅子や金髪の子どもたちが出てくる。このような人がいるのは普通だということを感じてもらえるのは重要であるので良いと思う。

原井教育長：それぞれの教科書の良さをを出していただいたが、学習指導要領に記載がある命の大切さや多様性の表現の良さについて意見があった教育出版を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【17 教育出版を採択】

【 音楽 】

原井教育長：音楽については、１７教育出版、２７教育芸術の２社である。各委員からのご意見を賜りたい。

伊藤委員：教育出版について、体を使ったりリトミック的な学習が多く、音から音楽へという構成が丁寧で非常に良いと感じた。

吉尾委員：学校の音楽といえば童謡唱歌だと思う。学校でしか学ばないような音楽も大切であり、そのような音楽を丁寧に取り扱っている教出が良いと感じた。

飯島委員：教育芸術は君が代について、裏表紙を開いたところに掲載している。教育出版は終わりの方に記載がある。全ての学年で君が代を歌えるようになることと学習指導要領に記載があるが、全学年を君が代で終了させるというのは不自然かと思う。教出では、音楽作りの楽しさを学べるようになっていと感じた。音楽に携わる職に就く人は少ないと思うが、だからこそ学校の中で多く学んでほしい。

古島委員：教育出版では、音楽の学び合いという内容が良いと感じた。単純に楽器や歌の練習をするだけでなく学びがある点が良いと感じた。音楽のまとめの内容も分かりやすく良い。見やすさには大差ないが、色合いも含め教育出版が良いと思う。

中川委員：教育出版ではイラストや写真を効果的に使われていた。また、折り込みページが子どもたちの意欲向上に繋がると思った。さらに、目当てが各ページに書いており、分かりやすく楽しく学習できると感じた。

原井教育長：教育出版を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【１７教育出版を採択】

【 図画工作 】

原井教育長：図画工作については、９開隆堂、１１６日本文教出版の２社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：２社とも子どもの作品を中心に紹介されている点が良いと感じた。しかし、日文の写真にはマスク姿の子どもの写真が多いように思う。子どもの表情が見えないのは残念だ。

伊藤委員：日文には作った作品で遊ぶ提案があり楽しいと感じた。子どもたちは作ったもので遊んだり、保護者の方にプレゼントしたりすることを好む傾向にあるので、良い点だ。マスクを着けた写真が多いという点は最初気付いていなかったが、言われてみると確かに気になる。

吉尾委員：日文の方が子ども目線の作品が多く、学校生活を大事にしているように感じた。子どもたちは教科書から影響を受けることも多いと思うので、マスク姿が多いのは私も気になる。

レイノルズ委員：日文は文字が小さいが、その分作品が大きく、重要視されているという印象である。一方で開隆堂は写真と文字のバランスが良いと思う。どちらが良いかは甲乙つけ難い。またマスクについて、私もご指摘があるまで気付いていなかったが、この先5年ほど使用する教科書と考えると不自然になってくると思う。逆に他の教科書はすごく気を使っているのだなと感じた。開隆堂の方が好ましいと感じる。

古島委員：各社ともSDGsや主体的な学びに関する記載があり良い。大きな差はないが、特に開隆堂には社会とのつながりを意識した内容が多く、地域活動や郷土愛にも触れていた点が良いと感じた。

中川委員：レイノルズ委員からもご意見があったように、私も日文は説明的で文字が小さく感じた。開隆堂は、作品と関連させて1年の流れが分かる最初のページや、1年のまとめのページ、各ページにQRコードや学習の目当てがある点が工夫されていて良い。表紙に「わくわくするね」と書いていたり、文字の工夫等で全体的に楽しい感じで子どもたちの興味を引くと思う。ICTの活用としては、日文では写真を撮る、開隆堂にはアニメを作るといったコンテンツがあり、それぞれの良さがあるが、総合的に開隆堂の方が良いと思う。

飯島委員：子どもたちはよくアニメを見ると思うので、私も開隆堂のアニメを作るといったコンテンツが良いと思う。また、両社とも学習目標が記載されているが、日文は表現の仕方が固いと感じた。子どもたちと共有しやすいようにもっと親しみやすい書き方が好ましい。

吉尾委員：図画工作は作って楽しむのがメインである中で、準備や片付けも学びとして大切である。開隆堂はその点が子どもたちにも分かりやすく書いているので、開隆堂の方が良いと感じる。

中川委員：開隆堂の方が写真に迫力があるように感じる。

原井教育長：それぞれの良い点を多く出してもらったが、学校現場の声も含めて開隆堂を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【9開隆堂を採択】

【 家庭 】

原井教育長：家庭については、2東京書籍、9開隆堂の2社である。各委員からのご意見を賜りたい。

伊藤委員：家庭は社会生活に繋がる教科である。キャリア教育を通じて社会に関心を持ってほしい。東書も端的で分かりやすいが、開隆堂はキャリアインタビュー等でそれを導くような内容が多い点が非常に良い。

吉尾委員：私は子どもたちの生活の基本である整理整頓のページを重点的に見た。開隆堂が分かりやすいと感じる。

飯島委員：料理について、開隆堂の方が見やすいと感じた。家庭科は日常生活のことを取り扱うので書こうと思えばいくらでも詳しく書けてしまう。東書は少し詳しすぎるような感じがする。開隆堂は一目で何を学ぶのか分かりやすい。

原井教育長：私も開隆堂の料理の手順のページ構成が分かりやすいと感じた。

中川委員：目次について、開隆堂は一目で何をすればよいか分かる点が良い。開隆堂の方は写真とイラストを上手く使い分けており、子どもたちが使いやすいと感じた。東書の振り返りを書く欄が分かりづらいと感じる。

古島委員：キャリア教育について、小学生には早いのではと感じる方もいるかもしれないが、私は重要だと感じている。そのため、キャリアインタビューの記載がある開隆堂が良いと思う。

原井教育長：開隆堂を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【9 開隆堂を採択】

【 保健 】

原井教育長：保健については、2 東京書籍、4 大日本図書、5 0 大修館、2 0 7 文教社、2 0 8 光文書院、2 2 4 学研教育の6 社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：東書は完成度が高いが、情報量が非常に多い。大日本はSDGsの取り扱いがあるが、時事的な内容がもっとほしいと感じた。一方で大修館は、咳エチケットや現代的なトピックを取り上げている。文教は副教材を必要としないくらい情報量が多いため、扱いきれないのではないかと思った。光文堂は保健ならではの胸骨圧迫やAEDの記載が分かりやすい。各社特徴がある中で、私は他の教科との関連を意識しやすい構成になっている学研が良いと思っている。保健は他の教科と比べると子どもたちが関心を持ちにくい傾向にあるかと思うが、他の教科と関連との付けや日常を取り入れることで関心を持ってもらいやすいかと思う。

レイノルズ委員：保健は自分が健康であるためにどうするべきかを示している教科書が良いと思っている。個人的にスマホやタブレット等との付き合い方に関心があり、健康のために体を動かす大切さを伝えているものが良い。現代の保護者は課題視している方も多いと思う。各社スマホについて取り上げてはいるが、中でも光文はスクリーンタイムの記載があった点が良いと思う。学研も写真や内容が分かりやすかった。保健では、健康に過ごすどのような人生を送れるかということを示すことも重要だと思う。各社がスポーツ選手や社会で活躍している方たちのエピソードが掲載されている一方で、学研はそのような内容が少なかったのが残念だ。

伊藤委員：私は学研が良いと感じた。コラムを重点的に比較させてもらった。学校医や養護の先生のコメントで、食事と便の関係や昼に活動することが体に適していることが説得ある書き方で記載されていた。また、学研が適切な分量ではないかと感じた。

吉尾委員：学研の1日の生活について、学校外での過ごし方の例が記載されていた。子どもたちが自分の生活を振り返るときに分かりやすいかと思った。飲酒に関する記載が各社あったが、ノンアルコールについての記載も重要であると思う。保護者へのたばこやお酒、薬物の断り方についても重要であると感じている。また、大修館の呼吸法や大日本のストレッチについても良いと思った。少しでも子どもたちのストレス軽減に繋がれば良いなと感じる。

中川委員：私も学研が分かりやすく、量や書く欄も適切であると感じる。また、生駒市が特に重要視している熱中症対策についても各社取り扱っていることはとても良いことだ。

原井教育長：それぞれの良い点を多く出してもらったが、学校現場の声も含めて、学研教育を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【224学研教育を採択】

【英語】

原井教育長：英語については、2東京書籍、9開隆堂、15三省堂、17教育出版、38光村図書、61啓林館の6社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：現行は東書であるが、学校現場は三省堂が良いとの結果が出ている。その理由は把握しているか。

花山課長：主な意見は、東書が現行のものより色がトーンダウンしている点や、東書より三省堂が見やすく、紙面構成が段階を経てレベルが上がっていく、見開きで毎回同じように授業が進んでいく等分かりやすい点である。

伊藤委員：小さな子どもは耳から自然に言葉を覚えていくが、高学年になると耳からの音だけで英語を覚えていくというのが難しいと言われている。東書は、文字を覚え、文字を書くための練習や発音（フォニックス）を5年6年で徐々に教えていくことが丁寧に織り込まれている。また、小学生の英語は中学と比べて授業数が少なく全て学習出来ていない現状を考えれば、東書の方が適切な量に感じる。

レイノルズ委員：現行の東書と三省堂を見比べると、確かに構成が分かりやすく、先生方には使いやすいのだと思う。先生方の意見を取り入れたいという気持ちもあるが、日常的に英語を使っている立場から見ると、より自然で子ども達に学んでほしい英語が使われているのは東書である。例えば、自己紹介において、三省堂では「My name is Taro.」、東書では「I am Taro.」とな

っている。どちらも間違っているわけではないが表現には幅があることをあえて示す部分もあり、東書の方がよいのではないかと感じる。また、三省堂はより身の回りの表現を深めていくといったような視点になっておりこれも大事だと思うが、英語は目的でなくコミュニケーションのための手段であり、可能性を広げるものであることを考えると、東書はより世界に向けた内容になっていると思った。また、東書は書き込みスペースが多いので、これを使っていくことで身に付いていく部分も多いのではないかと感じる。

飯 島 委 員：英語は比較的新しい教科である。他の教科より、より丁寧に学習指導要領が作られている。各社が編集して作られているものは、それぞれの学習指導要領が目標としている四つの機能をバランスよく育てるという方向性はみんな持っている。東書は書き込みスペースが多く、三省堂の方はあらかじめ示してある情報が多い。あらかじめ示してある情報が多い方が良いのかどうか判断は難しい。皆さんの意見を聞いて、子どもたちの学びを意識しているのは、東書の方なのかと思う。学校の現場が現行の教科書と違うものを推しているということもあり、他の委員の方の意見も十分聞かせていただきたいと思う。

吉 尾 委 員：英語は中学生の頃から苦手意識があり教科書を読み込むことは少し難しかった。皆さんの意見を聞いて、学校での学びという視点で考えると、子どもたちの学びを意識しているのは、東書の方かと思う。読み書きが大切なのはわかるが、英語圏の国へ行ったときに喋れて聞き取れることはコミュニケーションを取る基本だ。三省堂は視覚的に絵を見て主体的に思い浮かべることが子どもたちにとっては分かりやすいのかと感じる。親しみのあるよく知る話が英語に置き換えられているところも、少し好感を持った。

飯 島 委 員：英語は教育としてスタートして歴史が浅い。良い授業を作るための手立てを先生方が模索しているという部分もあると思う。日本の子どもたちの英語力は国際的な水準からみると低いとも言われており、さらに、上がっていくのではなくて、下がっていく傾向にある。全国学力テストで「話す」という活動で0点の割合が非常に高かった。日本語のコントロール能力がままならないうちに英語を学ばせるのはどうかという議論もまだ決着が付いていないと思う。日本の子どもたちの英語力が他の国と比べて低いというのは、何とかしなければならない問題で、このままでいいというわけにはいかないと思っている。英語に親しんでもらうという意味で考えると、三省堂の方が子どもたちに分かりやすい内容だと感じる。英語の方針を決める上で、東書は、空白が多い分は自分で考えなければいけないので難しいかもしれない。生駒市の子どもたちの英語力は高いので、検定教科書のこちらが難しいから避けた方がいいという総合判断は全く必要ないと思う。算数については、やさしい方が良いと方針を決めた。英語の方は、ど

ういう方針で選ぶのかということ、学校設置者として示して、それを先生方に理解してもらい、子どもたちの英語力を今よりも高める方向で努力していただくことをお願いできるのではないかと思います。最初は、三省堂の方が子どもたちが自分で学べるので良いかと思ったが、東書は先生方が授業で工夫できる部分が大変多いので、先生方の工夫によって、レベルの高い学力を身につけさせることができるのではないかと思います。

中川委員：東書は書くことにも力を入れて、英語の能力を高めようとしていると感じる。一方、三省堂は親しんだり楽しんだりしながら英語に慣れ親しんでいくことを目指している。生駒北小中学校へ訪問した際、小学校と中学校が上手く連携して学習していると聞いた。生駒の子どもたちの英語の学力を伸ばす取り組みを生駒市にもお願いできたらと思った。そのことからすると、東書の高い学力・内容の教科書でも大丈夫だと感じる。それには教育委員会の協力やいろいろな企画も必要だと思う。

伊藤委員：東書は実験的で新しい内容である。英語を話すこと、書くこと、今まで日本人があまり得意としてこなかった部分について、この2年間を通じてシステムティックにある程度伸ばそうと単元を進めている印象がある。このことは、これまでの教科書が日本であまり取り組んでこなかったアプローチなので、先生たちにとっても非常に難しいアプローチになる。学校の先生たちに丁寧な説明や補足的な説明、教科書を使いこなす研修が必要なのではないかと感じる。中学校の授業は小学校の内容はこなしてきた前提で始まってしまい、最初の間テストであまり点数が取れず軌道修正をされるということが毎年のように起きている気がする。小学校と中学校でどのように一貫して教えていくかということも話し合って、一貫したカリキュラム作りも必要だ。

古島委員：三省堂の教科書は配色が見やすく、文字の書き込み量も適切であると感じる。中学校の学習量は非常に多い。小学校で楽しく英語を学んだが、中学校で突然難しくなるとつまずく子どもは多いだろう。一方で、先生方の目線としては三省堂がこれまでの英語に触れ、親しんで楽しく学ぶという観点から使いやすいのだと思う。東書は内容も大きく変更され、特にライティングのところが非常に量が多い印象がある。そのため東書の教科書にすると先生方に大変苦勞していただかなくてはならないと思う。高校に入ってきた子たちも英語力にかなり差がついており、苦手な子たちが多いので、早い段階で学ぶことも良いのではないかと思います。

伊藤委員：小学校の英語は2年間学習しても、なんとなくで終わってしまう場合が多いと思う。話すこと書くことも重要だが、きちんと読めるようになっていくことができていない人が結構いるという現実に対し少し目を向けていただきたい。そういう意味で、読めるようになる教科書として東書が良いと思う。

原井教育長：小学校と中学校の連携の話が出ているので、中学校の教科書について事務局から説明をお願いします。

花山課長：現行は東京書籍を採択している。

吉尾委員：小学校の英語の授業は年間何時間あるのか。

花山課長：５年生、６年生で年間７０時間、週２時間になる。

吉尾委員：年間７０時間で全てを網羅するのは難しいと感じる。学べる量に限りがあると思われるので、子どもたちに何を学ばせたいのかのポイントを持って、それができる教科書を選ぶことが大切だと感じる。

中川委員：教科ができた以上、５年生では何を、６年生では何をどこまで学びましょう、どこまで子どもたちに学んでもらいましょうというのを中学校３年生までを見通しながらできるように小中の先生に集まって話をさせていただくとか、各学年で何をしたらいいのかが先生方にはっきりわかるように、教科書が決まったら取り組みをお願いしたい。

レイノルズ委員：東書は書くスペースが多い。確かに量は多いがすべて活用する必要はないと思う。東書はデジタル教科書を前提としている点も良い。中学校で東書が使われており接続の部分を考えると、小学校の方も、東書で頑張っている方が良く思う。先生方の負担は増えると思うが、うまく活用してもらえたらより良い学びができると思う。

古島委員：東書は、語彙の面についても中学校との接続を意識したような内容の構成になっていて、そこが三省堂のところは少し薄いという印象がある。語彙の面についても、小学校の段階で中学校との接続を意識したような形で指導していただければと思う。語彙は中学校へ上がるために増やしておきたい部分である。子どもたちは、語彙がわからないから言えない、書けない、話せないといったところがある。そういった意味で東書はそのあたりの技術もあって、非常に良い。少し難しいが、英語で他教科を学ぶ授業が最近少し話題になっており、チャレンジする先生方も出てきている。特に小学校の先生は専科もちろんあるが、全ての教科を教えるので、これからの英語教育に関して触れられているのが東書だと思う。

原井教育長：本市では英語教育に力を入れていて、小学校１年生から市独自の教材を使って、また、ALTの先生方にたくさん入っていただいてやっている。その成果があったことの一つの表れだと思うが、先日の全国調査では中３の英語力が非常に高い結果が出ている。学校現場の先生方の意見としては三省堂が多かったが、中学校への接続という課題も考えると、小中の連携を含めた合同の研修会や、新しい教科書の授業での活かし方を市教委の方でもしっかりとサポートしながら進めていくということで、教科書については、東京書籍を採択するというので、ご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【２東京書籍を採択】

【 道徳 】

原井教育長：道徳については、２東京書籍、１７教育出版、３８光村図書、１１６日本文教出版、２０８光文書院、２２４学研教育の６社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：前回の採択の際に内容が多くて取り扱いきれないのではないかという意見があったと思うが、今回も全社とも内容が多いと感じる。全て取り扱えるものなのか。

原井教育長：全てを扱う必要はない。その時の学級の様子に合わせて教員が題材を選択している。

飯島委員：光村は、国語と同様紙面の色が優しい点やサイズ感が良い。学研や東書では、愛玩動物としてのペットではなく、コンパニオンアニマルについての教材を扱って命の大切さを意識させているのが良い。東書は自然や生態系に関する意識を高める教材があり評価できる。教出や学研のＳＮＳの取り扱いについて、もう少し存在感を高めてほしいと感じた。日文はいじめについて丁寧に扱っていたが、分冊になっているので使いづらいように感じる。私はいじめを生じさせないという配慮が感じられる点やインターネットのモラルについても記載がある点で、光文が良いと思った。生駒市のいじめを許さないという姿勢やＩＣＴを推進していく教育方針と合っていると感じた。

伊藤委員：道徳では１人１人の自尊感情を育てることが重要であると感じている。その観点から、光村にはまずは自分を大事にしようという流れが記載されていた点が良い。さらに身近な話題で、考えることや討論を促す作りになっていると思う。光文では命の大切さを伝えるテーマが多くそこは良い点であるが、自尊感情を育てるという観点では弱いと感じた。また、善悪がはっきりしているテーマが多く、議論を促すテーマがある方がより良いかと思った。

原井教育長：各教科書の巻末に題材がまとめられている。ここを見ると各社が何を重要視しているかということが分かると思う。

吉尾委員：道徳は内面のことであるので取り扱いが難しいかと思う。光村での大谷選手のマンダラシートが印象的である。道徳ではよりよく生きることを重要視したい。自分を高めていくことが基本にあって、道徳の教科書を通じてアウトプットができる点が良いと思う。また、光村には僕らの茶道体験というテーマがあり良いと感じた。

中川委員：学習指導要領にも記載があるように子どもたちには道徳的態度を身に付けてほしい。光文は子どもたちが話し合い、自主的に考えるような内容であるので良いと感じた。

原井教育長：光村の良い点も意見があったが、生駒市の教育方針にあっている点や、先生
の意見も踏まえ光文書院を採択することでご異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【208光文書院を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

・特別支援学級使用教科書の採択について花山教育指導課長から説明

原井教育長：特別支援についても、普通学級にて使用する教科書を使用するのが望ましい
という説明であった。説明にあったとおり、特別支援についても生徒が
在籍する当該学年で採択された教科書を使用することに異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【当該学年で採択された教科書を採択】

○閉会宣告

午後0時39分 閉会